

JFEシビル設計・施工 GLP五霞 着工

グローバル・ロジスティック・プロパティーズ(GLP)の五霞プロジェクト(茨城県猿島郡五霞町)の起工式が2017年6月に行われました。完成は2018年10月の予定です。JFEシビルの設計施工案件で、同社にとって8件目のGLP案件です。鉄骨造3階建て、延床面積約14万平方メートルの先進的物流施設で、1階にはチルド帯の冷蔵対応エリアや飲料・建材等の重量物の保管を想定した床荷重2トン/m²の高耐荷重エリアを設けました。トラックバースは、東面に高床バースと低床バース、西面に高床バースを設け、多様な物流ニーズに対応できるようにしました。構造については、当社製品の二重鋼管座屈補剛ブレースを用いた制震構造を採用しています。制震構造は、地震時の地震エネルギーを制震ダンパーに吸収させることで、柱や梁にかかる荷重を抑え、建物の損傷を低減することができます。従来の耐震構造に比べコストも設計期間も余り変わらない中、耐震性が大きく向上するというメリットがあります。本件敷地の表層の性質上、支持層の傾斜による杭長不足や杭の高止まりを想定し、通常のボーリング調査に加え、当社独自技術の音響トモグラフィ地盤調査により支持層の深度を計測しました。



17.6.15
鉄鋼
新聞(2)

JFEシビル

茨城で大型物流施設を受注、着工

JFEシビル(社長・藤井善英氏)は14日、茨城県猿島郡で大型物流施設「GLP五霞」を着工したと発表した。世界有数の物流施設プロバイダー、グローバル・ロジスティック・プロパティーズ(GLP)から設計・施工を受注した案件で、GLP案件は8件目。竣工は2018年10月を予定している。

施設は鉄骨造3階建て、延床面積約14万平方メートル。独自製品の二重鋼管座屈補剛ブレースを用いた制震構造を採用し、地震時に地震エネルギーを制震ダンパーに吸収させることで、柱や梁にかかる荷重を抑え、建物の損傷を低減する。

また、敷地表層地盤の性質上、支持層の傾斜による杭長不足や杭の高止まりを想定し、通常のボーリング調査に加え、独自技術の音響トモグラフィ地盤調査による支持層の深度の計測も実施するなど、万全の調査を行った。

1階にはチルド帯の冷蔵対応エリアや飲料・建材などの重量物の保管を想定した床荷重2トン/m²の高耐荷重エリアを設けた。トラックバースは東面に高床バースと低床バース、西面に高床バースを配置し、多様な物流ニーズへ対応できるようにしている。

完成予定地

茨城県内最大の賃貸面積

マルチテナント型物流施設 設計施工＝JFEシビル



完成予想

延14万㎡、GLP五霞が起工

グローバル・ロジスティック
プロパティーズ(GLP)が

茨城県五霞町に計画しているマ
ルチテナント型物流施設「GL
P五霞」の建設地で7日、起工

式の完成を目指す。
起工式に先立つ記者会見で帖
佐社長は、「圏央道沿いの開発

ビル設計施工で2018年10
月の完成を目指す。
起工式に先立つ記者会見で帖
佐社長は、「圏央道沿いの開発

式が開かれた。首都圏中央連絡
自動車道(圏央道)五霞IC近
くに「茨城で最大の賃貸面積を
持つ」(帖佐義之GLP社長)の
物流施設を建設する。JFEシ

は西両部に多いが、北東部にも
ぜひ1棟ほしいと思っていた。
五霞町は東京都心から1時間か
からず、新4号国道ができれば
広域配送も実現できるなど北関
東の利便性も高まり、魅力があ
る場所だ」と語った。

規模はS造3階建て延べ約14
万平方メートル、茨城県内初の開発
プロジェクトとなる。ダブルラ
ンプウェーで各階に直接アクセ
スでき、BCP(事業継続計画)
対策として軽油備蓄タンクを設
置する。厨房機能付きカフェテ
リアや米国製超大型シーリング
ファンなども導入する。



敷入れの帖佐社長

敷入れの藤井社長

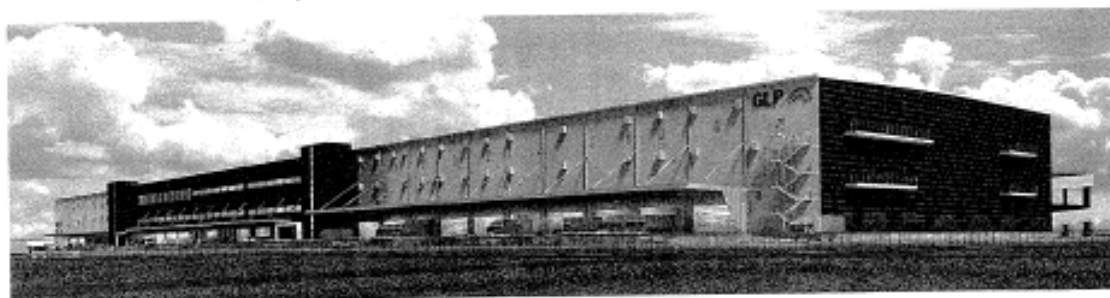
「二重鋼管を使った自社の制震
ブレースによる制震構造を採用
させていただいた。従来の耐震
構造に比べコストと設計期間が
あまり変わらない中、耐震性が
大きく向上する手法を用いたの
が特徴だ」と述べた。

建設地は五霞インターチェン
ジ周辺地区土地区画整理事業施
行区域内の約8・5畝。
村松徹所長(JFEシビル)の話
「近隣に小学校が
あり、第三者被害を
出さないよう無事故
・無災害で完成させ
たい」



村松徹所長(JFEシビル)の話
「近隣に小学校が
あり、第三者被害を
出さないよう無事故
・無災害で完成させ
たい」

で働き、住み、子育てもしてほ
しい」と期待を寄せた。
神事では畷(くわ)入れを帖
佐社長、鋤(すき)入れを藤井
社長が行った。両氏を始め染谷
町長、小林勤エム・ケー代表取
締役らが玉ぐしをささげた。



茨城・五霞に物流施設

来秋竣工フロア面積、最大級

GLP

グローバル・ロジスティック・プロパティーズ(帖佐義之社長、東京都港区)は7日、茨城県五霞町にマルチテナント(複数企業入居)型の大規模物流施設「GLP五霞」の建設に着工した。賃貸施設としては最大級のワンフロア面積(1階は4万3千平方メートル)を有するのが特徴で、延べ床面積は14万平方メートル。竣工は2018年10月を予定している。(谷本博)

冷蔵対応軽油タンク設置

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)・五霞インターチェンジ(IC)に隣接し、首都圏と北関東を結ぶ国道4号バイパス沿いという交通の要衝に位置。埼玉県北東部、茨城県西部、栃

木県南部はもとより、関東及び東日本の広域配送に適している。敷地面積は8万5千平方メートル。2階と3階はともにフロア面積3万9千平方メートルと、効率的なワンフロアオペレーションが可能。各階に直接アクセスできる片側

を採用した。一部エリアは、冷蔵対応を想定して電力を確保するなど、幅広い業種の物流ニーズに対応する。倉庫内の区画割りも、1区画5千平方メートルから1万4千平方メートルまで、多くのパリエーションを用意している。

1階は両面パースで、様々なテナント業種を考慮し、低床パースエリアと高床パースエリアを設置。床荷重は2トン(1平方メートル当たり)。各階の天井高は6メートル、3階は6メートルから7・2メートルと自由度の高い設計とした。

更に、BCP(事業継続計画)対策の一環として、軽油備蓄タンクを設置する予定で、非常時には備蓄契約を締結したテナントと近隣のGLP施設へ軽油を供給。普設はテナント企業が安く購入できる。

同日の起工式で、帖佐社長は「圏央道沿線での開発は今回で8棟目となるが、都心から車で1時間圏内と

いう立地の良さから、今後周辺地区で調査を進めていく」と、更なる開発に意欲を示した。

また、五霞町の染谷森雄町長が「長期間に及んだ事業がいよいよスタートした。周辺には食品工場が多くあり、道の駅にも隣接することから、集客人口が増えている」と話した。設計・施工を担当したJFEシビル(東京都台東区)の藤井善英社長は「新たな制震構造を取り入れており、震災時の建物損壊リスクを大きく低減できる」と強調した。

(完成予想図)